

地域で考える

スマートフォン・SNS 活用講座

実施者用ガイドブック

スマートフォン・SNS 活用講座

実施者用ガイドブック

CONTENTS

03 はじめに／メッセージ

山口市（デジタル推進課）

LINE株式会社

東洋英和女学院大学 国際社会学部 講師 酒井郷平

04 この講座について

05 基本編講座の流れ

14 活用編講座の流れ

22 LINEオープンチャットの設定方法

この教材の内容



スライドデータ
基本編／活用編



ワークシート
基本編／活用編



持ち帰り資料
基本編／活用編



実施者用ガイドブック

はじめに

近年、社会の情報化が進み、コミュニケーションやショッピング、旅行、仕事、教育、防災など日常生活のあらゆる場面でスマートフォンをはじめとするICT（Information and Communication Technology）が活用されるようになりました。こうしたICT活用の流れは、新型コロナウイルス感染症の流行によるテレワークの推奨や多様な産業での生産性・利便性の向上の実現を目指したビッグデータの活用に伴い、ますます加速していくと予想されます。

一方で、高齢者のICT活用をみると、若い世代と比較して進んでいないのが現状です。内閣府（2020）「情報通信機器の利活用に関する世論調査」によれば、スマートフォンやタブレットの利用状況について、全世代の総数では77.8%が「よく利用している」「ときどき利用している」と回答していますが、70歳以上では40.8%に留まっています。また、70代以上の方がこうした機器を利用してい

ない理由として、「自分の生活には必要ないと思っているから」（52.3%）、「どのように使えばよいかわからないから」（42.4%）が上位に挙げられています。特に、山間部や過疎地域では、災害情報や避難状況などの情報伝達が遅れてしまうことも懸念され、安全面からも高齢者にICTを活用していただくことが求められています。

こうした現状や課題を踏まえて、私たちは高齢者を対象に地域でスマートフォンの活用について考える講座を開発しました。この講座は、「基本編」と「活用編」の2種類に分かれており、基本編ではスマートフォンを利用するための動機づけを目指し、活用編では具体的なスマートフォンの活用場面について実機を操作しながら体験していきます。

ぜひ地域や自治体の取り組みとして本講座をご活用いただき、高齢者の方がICT活用を考える機会としていただければ幸いです。

メッセージ

山口市（デジタル推進課）

地域の皆様の生活がより便利になるようデジタル化の取組が各地で進展していますが、その効果は使っていただいていることからはじめて発揮されることから、スマートフォン等に不慣れな方へのサポートが大切と考えています。今回、共同開発した本教材は、スマートフォンの便利な機能や日常生活での活用場面を紹介するものとして、スマートフォンをお持ちでない方でも安心して参加いただけるほか、講師を務めていただく方々にも配慮した内容としています。

本教材を通じて地域の様々な場面で、デジタル活用支援の輪が広がっていくことを期待しています。

LINE株式会社

スマートフォン等の普及に伴い、キャッシュレス決済やオンラインでの行政手続きなど社会のデジタル化が進んでいます。一方で、インターネットやスマートフォンに不慣れな高齢者など、デジタル化されたサービスのメリットを受けられていない方もいます。

この講座と教材を通じて、スマートフォンやSNSが暮らしに役立つことや、災害・緊急時にも活用できることを住民の皆様にご案内いただき、地域のデジタルデバイド（情報格差）解消につなげることで、誰もがデジタル化の恩恵を受けられる社会構築の一助となることを願っています。

東洋英和女学院大学 国際社会学部 講師 酒井郷平

最近では、ICTを活用することで生活面や安全面などのリスクの低減や日常生活を豊かにすることができます。高齢者の方にも、まずは現状にあわせて「活用できそうな場面」や「適切な使い方」を考えていただくことが大切です。また、こうした高齢者のICT活用を有効なものにするためには、地域や自治体からの情報やサポートが不可欠です。本講座をきっかけに、ぜひ「利用者個人」の視点と「地域・自治体」の視点から高齢者のICT利用を考えていただきたいと思います。

プロフィール：静岡大学大学院博士課程修了、博士（教育学）。東洋英和女学院大学国際社会学部助教を経て現職。専門は、教育工学、情報教育、教育プログラム開発。学校や社会における「現代的な課題の解決」をテーマに調査研究や実践研究を行っている。主な著書に、『行動改善を目指した情報モラル教育』（2018）などがある。

この講座について

この講座のねらいとポイント

本教材では、“スマートフォンを活用できる場面”を考え、スマートフォンの活用を促すことを目的とした「基本編」と“目的に応じたスマートフォン利用”を体験し、LINEを中心としたアプリの操作の習得を目的とした「活用編」の2種類があります。これらを通じて、高齢者がスマートフォンを主体的に活用するための意識を高めることをねらいとしています。

そのための、大きく3つのポイントがあります。

◆ポイント① 「実生活と関連させながら」スマートフォン活用場面を考える【基本編】

高齢者の方がICTを使用しない理由として、「自分の生活には必要ない」と考えることが挙げられます。そこで、「基本編」の講座では、「日常場面で困っていること／こうできたらいいなと思うこと」をはじめにワークシートでチェックしてから、スマートフォンのアプリケーションの説明を行います。これにより、日常生活のどのような場面でスマートフォンを活用することができるかを視覚的に学ぶことができます。

◆ポイント② 「目的に沿って」スマートフォンの操作方法を体験的に学ぶ【活用編】

高齢者の方の中には、スマートフォンの操作方法のみを部分的に教わっても、家に帰ってから一人で操作ができないという場合があります。そこで、「活用編」の講座では、「LINE公式アカウントの使い方」ではなく、例えば「休日の当番医を知るための方法」のように、日常生活に関連しそうな目的を提示した上で、その操作方法について学んでいきます。そのため、参加者にとって「自分にとって学んだ内容がどのように役立つか」、「自分にとって必要な操作か」を判断していただきやすくなります。

◆ポイント③ 継続的な学びを促す「持ち帰り資料」の配布【基本編／活用編】

今回の講座では、「基本編」「活用編」ともに、講座終了後に参加者へ配布できる「お土産資料」を作成しています。この資料では講座で学んだ内容を自宅でも参加者にふりかえっていただけるように内容をまとめており、「活用編」については、講座内容の発展的な活用方法を掲載しています。このお土産資料を配布していただくことにより、講座内で学んでいた内容をより定着させていただくことにつながります。

想定する講座環境

基本編		活用編	
対象年齢	60代～80代	対象年齢	60代～80代
対象人数	10～30名程度（5人につき1名程度ファシリテーター推奨）	対象人数	10～30名程度（5人につき1名程度ファシリテーター推奨）
実施時間	45分	実施時間	90分
対象者	スマートフォンの購入を迷っている方、所持しているがあまり積極的に活用していない方	対象者	自分のスマートフォンを所有している方

スマートフォンは
どんなときに使える？

活用場面診断ワークショップ

実施時間の目安：45分

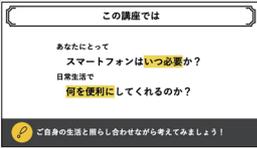
準備するもの

実施側	参加者
<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本編スライドデータ ○ 進行用パソコン ○ 投影用プロジェクタ、スクリーン ○ 基本編ワークシート（参加者人数分） ○ 基本編持ち帰り用資料（参加者人数分） ○ 実施者用ガイドブック ○ 筆記用具予備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆記用具（ワークシート記入用）

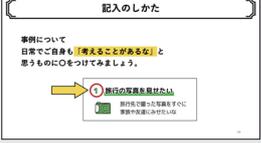
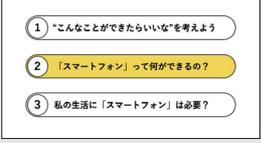
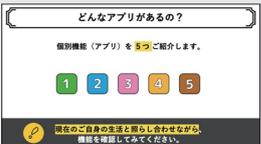
講座の流れ（簡易版）

時間	学習活動	準備物等
7分	1. 導入・アイスブレイク ・ 講座のテーマ ・ スマートフォンはどこが賢い？	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ パソコン ○ プロジェクタ、スクリーン
10分	2. “こんなことができたらいいな”を考えよう ・ ワークシートに○をつけながら、日常生活の中で「こんなことができたら」と思うことを考える	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ ワークシート（p.1） ○ 筆記用具
15分	3. 「スマートフォン」って、何ができるの？ ・ アプリの紹介（チェック①②③④→LINE） ・ アプリの紹介（チェック⑤⑥→Yahoo!ニュース） ・ アプリの紹介（チェック⑦⑧→Yahoo!防災速報） ・ アプリの紹介（チェック⑨⑩→Retty） ・ アプリの紹介（チェック⑪⑫→Google 翻訳）	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ ワークシート（p.2,3）
10分	4. 私の生活に「スマートフォン」は必要？ ・ 紹介したアプリの「使ってみたい度」に○をつけ、グループで共有する（具体的な場面を想像する）	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ ワークシート（p.4）
3分	5. まとめ ・ 「こんなことができたら」と「使ってみたい」を比較 ・ スマートフォンは「生活を便利にするための道具」	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ ワークシート（p.1,4）

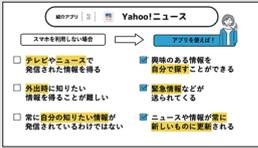
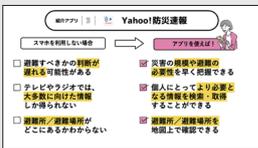
講座の流れ（詳細版）

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
7分	導入・アイスブレイク		1. 導入・アイスブレイク 「地域で考えるスマートフォン・SNS 活用講座 基本編」の講座を始めます。	○ スライドデータ ○ パソコン ○ プロジェクタ、スクリーン
			この講座では、「みなさんにとってスマートフォンがいつ必要になるか?」「スマートフォンや SNS が日常生活のどんな場面で何を便利にしてくれるのか?」について、考えていきます。	
			さて、みなさんが普段もっているスマートフォンですが、スマートフォンの「スマート」とは、どういう意味でしょうか？お近くの方と考えてみてください。（シンキングタイムをとる） ※1分程度 では、選んだ答えに手を挙げてください。 ① 細い ② かっこいい ③ 賢い	
			正解は、③の「賢い」になります。	
			スマートフォンは日本語に訳すと「賢い電話」で、電話だけでなく様々な用途に活用することができます。	
			ところでみなさんは、スマートフォンの前の携帯電話を知っていますか？いわゆるガラケーと呼ばれる携帯電話がありましたね。ここでまた1つクイズですが、ガラケーとスマートフォンの違いは何でしょうか？お近くの方と考えてみてください。（シンキングタイムをとる） ※1分程度	
			（ちがいを説明する）	

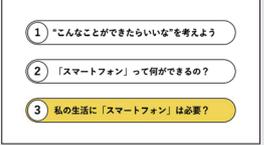
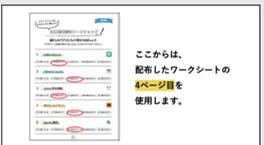
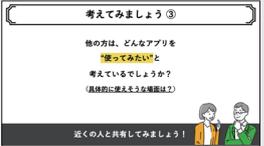
時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>例えば、「地図を見たいな」と思ったら地図をえるようにできたり、「ニュースを調べたいな」と思ったらニュースを調べたりする機能を追加することができます。</p> <p>今日の講座では、この「新しく機能を追加できる」スマートフォンならではの良さに注目して、スマートフォンを活用できる場面について考えてみましょう。</p>	<p>ポイント</p> <p>「利用者の目的に応じて機能を追加できるかどうか」</p> <p>ガラケーの場合、ボタンで操作します。そして、契約したキャリアの回線で通信し、機器に搭載されている機能を使用できます。実は、買った段階でできることが決まっています</p> <p>一方、スマートフォンは、画面をタッチして操作し、キャリア回線だけでなくWi-Fi（お店や図書館など）も使って通信を行えます</p> <p>さらに、様々な個別機能（アプリ）を使用して、使いたい機能を自由に選び、新しい機能を追加することもできます</p>
10分	2. “こんなことができたらいいな”を考えよう	<ol style="list-style-type: none"> ① “こんなことができたらいいな”を考えよう ② 「スマートフォン」って何ができるの？ ③ 私の生活に「スマートフォン」は必要？ 	2. “こんなことができたらいいな”を考えよう	
		<p>考えてみましょう①</p> 	<p>ふだんみなさんは、スマートフォンを使う中で、「こんなことができたらもっとスマートフォンを使うのに」と考えたことはありますか？</p> <p>まずは、アプリを使う前に、「こんなことができたらいいな」ということについて考えてみましょう。</p> <p>今からワークシートを使って、事例をもとに「どんな場面で困ったことや不安になることがあるか」を考えていきます。</p>	<p>○ ワークシート (p.1)</p> <p>○ 筆記用具</p> <p>ポイント</p> <p>ワークシートは二つ折りのままでOK</p>
			ここからはワークシートの1ページ目を使います。	

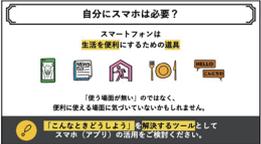
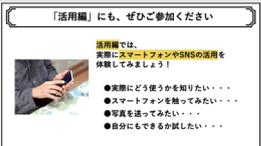
時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>記入のしかたを説明します。 例えばワークシートの①をみると、「旅行の写真を見せたい」とあります。</p>	
			<p>このとき、もしみなさんが同じように思った経験があったら、左の四角い枠の中に○を書いていってください。 同じように、12個の場面についてもそれぞれ○を書いてください。 逆に、「考えたことがないもの」は無視していただいて構いません。 (記入する時間をとる) ※3分程度</p>	
			<p>さて、12個の場面について○をつけていただきました。 実はスマートフォンには、これらの悩み・体験を解決できるアプリがあります。 今日は、みなさんの「こんなことができたら」という悩みを解決するために、目的に応じたアプリを紹介していきます。</p>	
15分	3. 「スマートフォン」って、何ができるの？		<h3>3. 「スマートフォン」って、何ができるの？</h3>	
			<p>ここからは、ワークシートの見開きのページ(2ページ目と3ページ目)を使っていきます。</p>	<p>○ ワークシート (p.2,3)</p> <p>ポイント ワークシートを見開きで広げる</p>
			<p>今日はアプリを5つ紹介するので、みなさんの普段の生活と照らし合わせながら、アプリの機能を確認してみてください。</p>	
			<p>まずは、①～④のどれかに○をつけた方にオススメのアプリを紹介します。</p>	<p>①②③④に○をつけた人に、手を挙げてもらってもOK</p>
			<p>「LINE」というアプリです。 このLINEを使う場面を漫画にしてみましたので、ご覧ください。 (漫画をよみあげる)</p>	

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>このように、旅行先などで、風景や食べ物の写真を送ったり、文章で会話することができます。</p>	
			<p>さらに、撮影した写真は一度に何枚も送ることができます。また、撮影した写真をまとめてアルバムとして保存することができます。</p>	
			<p>ほかに、離れていても相手の顔を見ながら電話をすることができる「ビデオ通話機能」もあります。</p>	
			<p>また、「LINE 公式アカウント」を友だち追加すると、お住まいの自治体から地域の情報を受け取ることができます。</p>	
			<p>スマートフォンを利用しない場合は、写真をすぐに送れなかったり、電話は音声だけであったり、住んでいる地域の情報が入手しづらかったりします。</p>	<p>ポイント</p>
		<p>スマートフォンを利用しない場合 → スマートフォン</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 撮影した写真は、すぐ相手に見せることができない □ 電話では声でしか相手の様子が見えない □ 住んでいる地域の情報を知りたい時に知れない <ul style="list-style-type: none"> ■ 撮影した写真も、より簡単に送ることができる ■ コロナ禍でも、顔を見て会話することができる ■ 自治体から発信された情報や速報がすぐに手元に届く 	<p>一方スマートフォンのアプリを使えば、「写真をより簡単にすぐに送れる」「コロナ禍でも顔を見て会話できる」「自治体の情報・速報がすぐに手元に届く」ということができるようになります。</p>	<p>情報をただ送ったり受け取ったりするだけでなく、自分の地域の情報だけを受け取ったり、家族や友人とスムーズにコミュニケーションできる点がポイント</p>
			<p>続いて、⑤⑥のどちらかに○をつけた方にオススメのアプリを紹介します。</p>	<p>⑤⑥に○をつけた人に、手を挙げてもらっても OK</p>
			<p>「Yahoo! ニュース」というアプリです。Yahoo! ニュースアプリでは、お住まいの地域の情報だけでなく、家族や友人の住む地域の情報もあわせて受け取ることができます。</p>	
			<p>この Yahoo! ニュースを使う場面を漫画にしてみましたので、ご覧ください。</p> <p>(漫画をよみあげる)</p>	

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>このように、Yahoo! ニュースアプリで地域の設定を行うと、お住いの地域に関する情報をいつでもどこでも入手することができます。</p>	
			<p>スマートフォンを利用しない場合は、テレビやニュースを見つげないと情報を得られなかったり、外出時に情報が受け取れなかったりします。</p> <p>一方スマートフォンのアプリを使えば、知りたい情報を探すことができ、緊急情報や速報など、常に新しい情報を入手しやすくなります。</p>	<p>ポイント</p> <p>必要な情報、興味のある情報、地域や災害の情報などを、いち早く、効率的に入手できる点がポイント</p>
			<p>続いて、⑦⑧のどちらかに○をつけた方にオススメのアプリを紹介します。</p>	<p>⑦⑧に○をつけた人に、手を挙げてもらってもOK</p>
			<p>「Yahoo! 防災速報」というアプリです。Yahoo! 防災速報アプリでは、地震や豪雨などの災害情報、防犯情報など「危険を知らせる情報」が自動で届きます。また、お住いの自治体が指定した避難所、避難場所も確認することができます。</p>	
			<p>この Yahoo! 防災速報を使う場面を漫画にしてみましたので、ご覧ください。</p> <p>(漫画をよみあげる)</p>	
			<p>このように、地震の震度や停電情報などをすぐに確認できることで、避難に向けて事前に備えることにつながります。</p>	
			<p>スマートフォンを利用しない場合は、テレビやラジオなどの大多数に向けた情報しか得られず、避難すべきかの判断が遅れてしまったり、避難場所がわからなくなったりしてしまうかもしれません。</p> <p>一方スマートフォンのアプリを使えば、災害の規模や避難の必要性を把握でき、みなさん個人にとってより必要な情報を検索・取得することができるため、より素早い避難につながります。</p>	<p>ポイント</p> <p>災害や防犯などが起きたとき、自分の地域における危険度を把握し、危険に対する備えをする時間をより確保できるようになる点がポイント</p>

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>続いて、⑨⑩のどちらかに○をつけた方にオススメのアプリを紹介します。</p>	<p>⑨⑩に○をつけた人に、手を挙げてもらってもOK</p>
			<p>「Retty (レッティ)」というアプリです。Retty では、お店の場所や予約時間、人数を入力すると、その情報からオススメのお店を検索することができます。さらに、実際に訪れた人の感想もチェックできるため、初めて行くお店でも安心して行きやすくなります。</p>	
			<p>この Retty を使う場面を漫画にしてみましたので、ご覧ください。</p> <p>(漫画をよみあげる)</p>	
			<p>このように、例えばアプリで事前に予約を済ませておいたり、いつもと違うお店を見つけて行ってみたいことができます。</p>	
			<p>スマートフォンを利用しない場合は、特に旅行先などでのお店選びに困ったり、営業時間中でない予約の電話をかけられなかったりします。</p> <p>一方スマートフォンのアプリを使えば、初めて行くお店の情報でも入手でき、口コミによってお店の雰囲気や評価を確認できたり、アプリからいつでも予約を行うことができるようになります。</p>	<p>ポイント</p> <p>初めて行くお店でももって情報を知ったうえで予約をすることができ、お店のレポートも広げることができる点がポイント</p>
			<p>最後に、⑪⑫のどちらかに○をつけた方にオススメのアプリを紹介します。</p>	<p>⑪⑫に○をつけた人に、手を挙げてもらってもOK</p>
			<p>「Google 翻訳」というアプリです。Google 翻訳では、翻訳したい文字をカメラで撮影すると、自動で翻訳してくれます。カメラで撮れない場合は文字を入力することもできます。英語だけでなく、世界中の言語にも対応しています。</p>	
			<p>この Google 翻訳を使う場面を漫画にしてみましたので、ご覧ください。</p> <p>(漫画をよみあげる)</p>	

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>このように、海外や国内でも、外国語の表記がされていて読めない看板・表示などがあつたときに、カメラで撮影するだけで日本語に翻訳することができます。</p>	
	4. 私の生活に「スマートフォン」は必要？		<p>4. 私の生活に「スマートフォン」は必要？</p>	<p>ポイント わからない言葉でも、カメラで撮影するだけで瞬時に翻訳でき、海外の人とも交流することができるようになる点がポイント</p>
10分	4. 私の生活に「スマートフォン」は必要？		<p>ここまでの話を踏まえて、ここからはワークシートの4ページ目を使います。</p>	<p>○ ワークシート (p.4) ○ 筆記用具</p> <p>ポイント ワークシートをとじる</p>
	4. 私の生活に「スマートフォン」は必要？		<p>ここまでご紹介した5つのアプリについて、みなさんご自身の生活に「役立つかどうか」を考えていただきたいと思います。</p>	
	4. 私の生活に「スマートフォン」は必要？		<p>記入のしかたを説明します。 例えば、① LINE の場合、LINE の話を踏まえて、ご自身の日常生活で「使ってみたいと思う度合い」の番号に○を書いてください。</p>	
	4. 私の生活に「スマートフォン」は必要？		<p>同じように、5つのアプリについてそれぞれ○を書いてみましょう。</p> <p>(記入する時間をとる) ※ 2～3分程度</p>	
	4. 私の生活に「スマートフォン」は必要？		<p>では、先ほど書いたワークシートを近くの方と共有してみましょう。 他の方がどんなアプリを「使ってみたい」と考えているか、おたがいに見せ合っ て、具体的に使いそうな場面を想像しながら、お話ししてみてください。 (近くの人と話し合う時間をとる) ※ 2～3分程度</p>	

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
3分	まとめ		<p>まとめ</p> <p>講座の最後に、本日のまとめをします。</p> <p>まずは、ワークシートを広げてみましょう。そうすると、最初に○をつけたところと最後に○をつけたところが左右にならびます。</p>	<p>○ ワークシート (p.1,4)</p> <p>ポイント ワークシートを開きで広げる</p>
			<p>例えば、左側 4 ページ目のシートで「使ってみたい」に○がついていて、右側 1 ページ目の同じ色の欄にも○がついていれば、みなさんの生活の中に「そのアプリを使える場面があり、より便利になる」可能性がります。</p> <p>また、左側 4 ページ目のシートで「使ってみたい」に○がついていて、右側の同じ色の欄に○がなければ、みなさんの生活の中に「ふだんの生活では使わないと思っていたが、アプリの機能を知ってみるともしかしたら使える場面があるかもしれない」といったことが考えられます。</p> <p>このように、左右のページを見比べていただき、ぜひこうしたアプリを入れていただき、スマートフォンをより便利に使っていただき、生活をよりよいものにしていただければと思います。</p>	<p>ポイント</p> <p>左側 4 ページ目が「使ってみたい」で、右側 1 ページ目が「○」 →日常生活で使える場面があり、より生活を便利にできるアプリ</p> <p>右側 1 ページ目が「なし」 →これまで意識していなかったが、使えるかもしれないアプリ</p>
			<p>スマートフォンは生活を便利にするための道具です。「使う場面がない」のではなく、使える場面に気付いていないかもしれません。</p> <p>ぜひ今日の話参考に、「こんなときどうしよう」を解決するツール・道具としてスマートフォンやアプリのご活用を意識いただければと思います。</p>	
オプション				
			<p>なお、この講座には活用編もあります。今日の講座をふまえてもっとスマートフォンを使いこなしたい、便利な活用方法を体験したいと思われた方は、ぜひご参加ください。</p>	<p>ポイント</p> <p>基本編の参加者に対して、活用編の講座を告知する必要がある場合には、このスライドを使用する</p>

SNS を活用した暮らしの便利と防災を考えよう！

実施時間の目安：90分

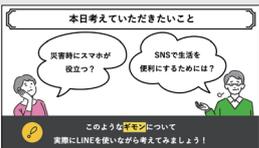
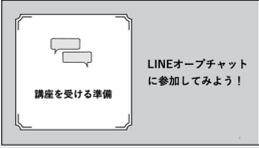
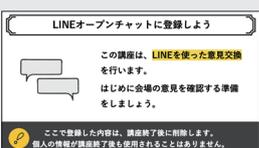
準備するもの

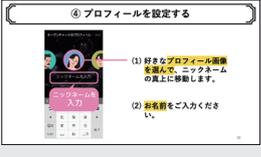
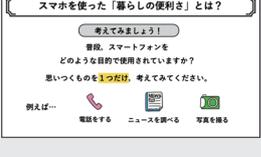
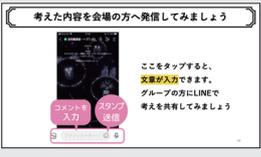
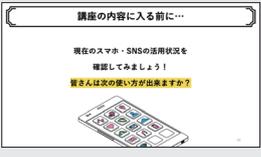
実施側	参加者
<ul style="list-style-type: none"> ○ 基本編スライドデータ ○ 進行用パソコン ○ 投影用プロジェクタ、スクリーン ○ 基本編ワークシート（参加者人数分） ○ 基本編持ち帰り用資料（参加者人数分） ○ 実施者用ガイドブック ○ 筆記用具予備 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 筆記用具（ワークシート記入用） ○ スマートフォン

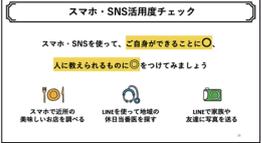
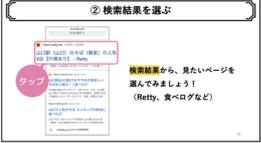
講座の流れ（簡易版）

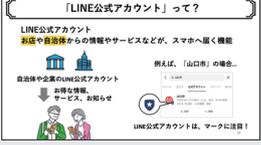
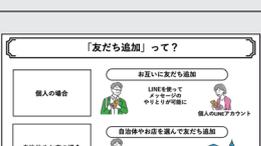
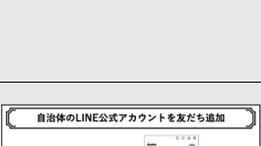
時間	学習活動	準備物等
15分	1. 導入・機器操作のための準備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 講座のテーマ ・ 参加者を LINE オープンチャットへ参加させる ・ スマホを使った「暮らしの便利さ」とは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ パソコン ○ プロジェクタ、スクリーン ○ LINE オープンチャット（開設方法は p.24）
10分	2. スマホ・SNSの活用度チェック <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに○をつけながら、自分ができること、人に教えられることをチェックする（p.1） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ ワークシート（p.1） ○ 筆記用具
15分	3. スマホを使った情報検索 <ul style="list-style-type: none"> ・ ブラウザ検索による美味しいお店の検索（p.2） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ ワークシート（p.2）
20分	4. 地域とつながるSNS活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体の LINE 公式アカウントによる情報収集（p.3） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ ワークシート（p.3）
25分	5. 災害時のSNS活用 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治体の LINE 公式アカウントによる情報受信（p.4） ・ 写真や動画による情報発信（p.4） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ ワークシート（p.4）
5分	5. まとめ <ul style="list-style-type: none"> ・ スマートフォンや SNS を活用することで、生活を便利に安全にすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ ワークシート（p.4）

講座の流れ（詳細版）

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
15分	導入		1. 導入 「地域で考えるスマートフォン・SNS 活用講座 活用編」の講座を始めます。	<ul style="list-style-type: none"> ○ スライドデータ ○ パソコン ○ プロジェクタ、スクリーン ○ スマートフォン ○ ワークシート
			まずは、お手元にご自身のスマートフォンとワークシートをご準備ください。スマートフォンにはLINEがインストールされているか、使える状態にあるかどうかをお確かめください。	ポイント 参加者のスマートフォンにLINEがインストールされているかどうか？もしインストールされていない参加がいれば、個別対応でインストール作業を行ってください
			この講座では、「SNSで生活を便利にするためにはどうすればよいか？」「災害時にスマホがどのように役立つのか？」について、実際にLINEを使いながら考えていきます。	
			機器操作のための準備	
			また、この講座では意見交換をLINEの「LINEオープンチャット」を使っています。「LINEオープンチャット」とは、ここにいるみなさんがLINEのアプリ上でグループをつくり、考えや疑問を共有できる場所として使うことができます。	ポイント 講座で使用したLINEオープンチャットは、講座終了後に削除する
			では、準備を始めていきます。まずは、お手元のスマートフォンでLINEを起動してください。画面にある枠の右端のアイコンをタップして、QRコードを読み取ってください。	ポイント LINEオープンチャットは事前に作成しておき、参加のためのQRコードもあわせて印刷しておくとい
	QRコードを読み取れたら、画面の指示どおりに、「LINEで開く」「参加コードを入力」をタップして進めていきます。			

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>「参加コードを入力」の枠が出たら、スクリーンに映している本日の参加コードを入力し、「次へ」を押して進んでください。</p>	
			<p>次に、ご自分のプロフィールを設定していただけます。 好きなプロフィール画像を中央に移動させ、お名前をご入力ください。</p>	
			<p>完成したら、「参加」をタップしてください。 ここで、「(ご自分の名前)」がトークに参加しました」と表示されればOKです。</p>	
			<p>では、早速LINEオープンチャットを使ってみましょう。 本日の講座は「暮らしの便利さ」をテーマとしています。みなさんは普段、スマートフォンをどのような目的で使用されていますか？ 思いつくものを1つだけ、考えてみてください。</p>	
			<p>画面下部の枠内に文字を入力して右側のボタンを押すと発信できますので、スマートフォンの使用目的を書いて送ってみてください。</p>	<p>ポイント 自分の意見を送りつつ、ほかの参加者がどのような目的でスマートフォンを使っているかをチェックしてみるようながすとよい</p>
10分	2. スマホ・SNSの活用度チェック		<p>2. スマホ・SNSの活用度チェック</p> <p>ここまでで準備が終わりました。 早速講座の本題に入っていきましょう。</p>	<p>○ ワークシート (p.1) ○ 筆記用具</p>
			<p>まず1つ目は、「スマホの活用度チェック」です。 先ほどスマートフォンを使っている目的を共有いただきました。 今から、皆さんがどのくらいスマホやSNSを活用されているか、もう少し詳しくチェックしてみようと思います。</p>	

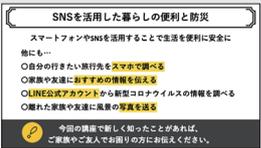
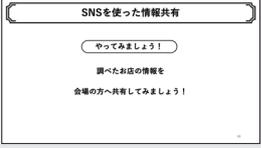
時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>(スライド 18 に注目させながら) 今からワークシート p.1 の下段に、この3つのことについて「ご自身ができること」には「○」、「人に教えられるもの」には「◎」を書いてみましょう。</p>	<p>ポイント ○や◎は点線をなぞるように書かせ、班（グループ）ごとにワークシートを見せ合って共有させるとよい</p>
			<p>今日の講座では、この3つの方法について確認していきます。◎を書いたものは確認程度に見ていただきつつ、○や空欄になったものはぜひ一緒に確認していきます。</p>	
15分	3. スマホを使った情報検索		<p>3. スマホを使った情報検索</p>	○ ワークシート (p.2)
			<p>まずは「スマホを使った情報検索」をやってみようと思います。 例えば、スマホで近所の美味しいお店を調べるときは、どうすればよいでしょうか？ その方法を確認していきましょう。</p>	
			<p>例えば、山口駅周辺で皆さんが食べたいと思うお店を探してみましょう。</p>	
			<p>探すためには、まず検索用のアプリを使います。お手元のスマートフォンで「Safari」か「Chrome」などのアプリを開いてください。 調べるときは、例えば、「山口駅 そば お店」のように検索してみましょう。 検索結果を見てみましょう。</p>	
			<p>例えば「Retty」や「食べログ」のようなページを見てみると、そのお店のより詳しい情報を確認できます。</p>	<p>ポイント Safari や Chrome がない場合は、類似のブラウザ検索アプリを開かせる</p>
			<p>(検索させて、ページを閲覧させる)</p> <p>こうしたサイトでは、お料理の写真やメニュー、実際に食べた人の感想などを見ることができるので、お店に行く前やお店探しの際にぜひチェックしてみてください。</p>	

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
15分	4. 地域とつながる SNS 活用		4. 地域とつながる SNS 活用	○ ワークシート (p.3)
			次に、「地域の情報で暮らしを便利に」するための方法を見ていきましょう。	
			先ほど近くの美味しいお店を調べたように、インターネットを使えば色々な情報を得ることができますが、もう少しお住まいの地域に特化した情報、自分の住む地域ならではの情報を見つけることもできます。 例えば、地域医療に関する情報や自治体である県や市が発信する情報などです。	
			今から、LINE を使って、お住まいの自治体の LINE 公式アカウントを「友だち追加」してみましょう。	ポイント 自治体によっては LINE 公式アカウントがない可能性もあるため、事前にあるかどうかを確認しておくとい
			LINE 公式アカウントとは、友だち追加することで、お店や自治体から、お得な情報やサービスのお知らせが届くアカウントです。 LINE 公式アカウントには、アイコンの右下に「★」印がついています。	
			この LINE 公式アカウントを「友だち追加」というのは、普段皆さんが家族や友人を「友だち追加」しているからメッセージをやりとりできているのと同じで、LINE 公式アカウントも友だち追加を済ませておくと、自治体がお知らせやメッセージを届けてくれるようになります。	
			もう一度 LINE を開いてください。 まずは、画面下部の「ホーム」をタップします。 (スクリーンにも注目させながら)	ポイント 参加者のお住まいの地域(市区町村)で検索をかける
			次に、画面上部のグレーの枠の中に「〇〇市」と入力してください。	

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			自治体の LINE 公式アカウントを見つけたら、「追加」を押すと追加完了です。	
			「トーク」のボタンが出たら、それをタップしてください。	<p>ポイント</p> <p>LINE 公式アカウントのメニューは自治体によって異なる可能性があるため、事前に確認しておくとうい</p>
			では、1つ練習をします。自治体の LINE 公式アカウントから、「休日の当番医」の情報を確認してみましょう。	
			まずは、トーク画面から「くらしの情報」をタップして、「病院」をタップします。	<p>ポイント</p> <p>メニューが異なると操作方法も異なってくるため、事前に LINE 公式アカウントを友だち追加して、どのように情報にアクセスすればよいかを確認しておくとうい</p>
			次に、「休日当番医」をタップすると、情報が表示されます。このように操作していくと、○月○日はどの診療所・クリニック・病院が当番なのかを、自治体の LINE 公式アカウントからいつでも確認することができます。	
15分	5. 災害時の SNS 活用		5. 災害時の SNS 活用	○ ワークシート (p.4)
			次に災害時の SNS 活用を考えてみましょう。	
			ここまで、便利な暮らしのためにスマホや SNS をどう使うことができるかを考えてきました。ただ、便利な暮らしのためには「安全」も重要ですね。	

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>最後に、「防災」や「災害」を例に SNS の活用方法を考えてみましょう。 （スクリーンに注目させながら） もし、「大雨の被害」に備えるとしたら、どのような対策が必要でしょうか？ 既にご自宅で準備されていることもあわせて、被害にあう前・被害にあってからできることを考えてみてください。 （シンキングタイムをとる） ※ 2～3分程度 （班やグループで意見を共有させる）</p>	<p>ポイント 考えた対策は、LINE オープンチャットに投稿してもらってもよい</p>
			<p>（スライド 43 を読み上げながら） 例えばこんな対策が考えられます。もちろん、スマホや SNS を使って、災害情報を確認しておくことも大切です。ただ、災害情報や避難場所などの全ての情報を調べていくのは大変です。</p>	<p>ポイント 自治体の中でもどのエリアが危険・安全なのかを、リアルタイムに情報受信できる点が重要であると伝える</p>
			<p>そこで、先ほどの LINE 公式アカウントを使うと、災害時にも素早く情報を受信することができるようになります。</p>	
			<p>（スライド 45 を見せながら） 例えばこのように、台風や地震、警報・注意報などの情報が LINE で通知されるようになります。</p>	
			<p>では、こうした災害情報を受信できるように設定してみましょう。 LINE 公式アカウント内の「受信設定」メニューを開き、「許可する」をタップしてください。</p>	<p>ポイント LINE 公式アカウントのメニューは自治体によって異なる可能性があるため、事前に確認しておくとうい</p>
			<p>次の画面ではお住まいの地域を登録します。 「防災」をタップして、地域を選び、「登録」をタップすると、受信設定は完了です。</p>	
			<p>ここまでは、「災害に備えて」おくためのお話でした。今日は最後に、災害が起きたときのことを考えてみましょう。</p>	

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>(スライド 49 を読み上げながら)</p> <p>例えば、災害が起きたときには、このようなことをする必要があります。災害や地域の情報の確認も重要ですが、「自分の状況を伝える」ことも重要ですよ。</p> <p>安否確認として伝えるだけでなく、避難できない状況にあるということ伝える必要が出てくるかもしれません。その場合、電話が繋がらなかつたり、文章だけではうまく伝わらなかつたりする可能性もあります。このようなときには、写真や動画によって自分の状況を伝えることも有効です。</p>	<p>ポイント</p> <p>例えば、離れたところにいる家族や友人に「家具が落ちてきた、大変」という文章を LINE で送ったとしても、画面上の文章（テキスト）だけでは、実際はどのくらい大変なのか、救助が必要なのかなど、詳しい状況がわかりづらい</p>
			<p>最後に、LINE で家族や友人に写真を送ることを体験してみましょう。</p>	
			<p>LINE オープンチャットに戻ってください。画面左下の「カメラマーク」は写真を撮って送る機能です。「写真マーク」はこれまでに撮った写真を送る機能です。</p>	
			<p>では、実際に「カメラマーク」をタップして、会場全体の様子の写真を LINE オープンチャットへ送ってみましょう。</p>	<p>ポイント</p> <p>参加者の顔写真ではなく、会場全体の雰囲気撮影・送信させるようにする</p> <p>早く終わった参加者には、動画の送信にもチャレンジしてもらおうとよい</p>
	6. まとめ		<p>6. まとめ</p>	
			<p>では、講座のまとめを行います。最初にワークシートにチェックしていた3つのことについて、ご確認いただけましたでしょうか。</p>	

時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>もし今日の講座を通して身についたところがありましたら、○や◎を書き加えてみてください。</p> <p>本日の講座をきっかけに、スマートフォンやSNSを活用して、少しでも生活を便利に安全にしていってください。</p>	
			<p>(スライド 56 を読み上げながら) 本日学んだ方法は、他の様々なことも同じやり方でできますので、ぜひ周りでお困りの方にお伝えいただければと思います。</p>	<p>ポイント</p> <p>例えば、お店を調べるのと同じ方法で「旅行先を調べる」、写真や動画を送るのと同じ方法で「おすすめのお店の情報」を送るなど</p>
オプション				<p>ポイント</p> <p>講座の内容に応じて、各自治体のサービスや以下のスライドの内容を参加者に説明する</p>
			<p>(「スマホを使った情報検索」で学んだことを踏まえて) では、調べた情報を家族や友人に伝えたいときはどうすればよいでしょう？</p>	<p>ポイント</p> <p>時間があれば、活用編本編の「スマホを使った情報検索」のワーク終了後に行うとよい</p>
			<p>例えば、講座では近くの美味しいお店を検索しましたが、今からそのお店の情報を会場にいるみなさんに向けて共有してみようと思います。</p>	
			<p>(スライド 59 を見せながら) 伝えたいお店のページを開いたら、この「共有ボタン」が画面にあるかどうかを確認してください。</p>	<p>ポイント</p> <p>スマートフォンの機種（Android OS、iOS、らくらくフォンなど）によって操作方法が異なるため、参加者が持参しているスマートフォンの機種を把握しておくとうい</p>

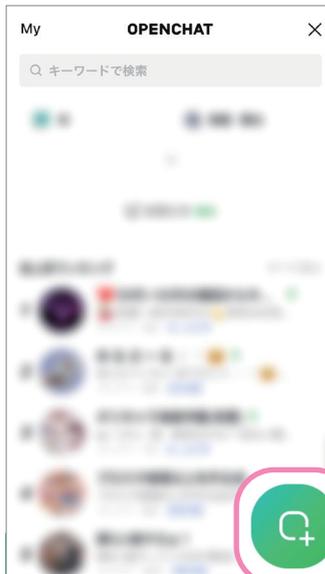
時間	展開	スライド・番号	進行セリフ	準備物・留意点
			<p>共有ボタンを押すと、どのアプリで共有するかを選択肢が出てきますので、「LINE」を選んでください。すると、どこに・だれに共有するかを選択肢が出てきますので、本日はLINE オープンチャットを選び、転送を押してください。これで、送信完了です。</p>	
			<p>(共有できたら) では、ほかの皆さんがどんなお店をおすすめしているか、LINE オープンチャットからページをのぞいてみましょう。</p>	
				
			<p>(「災害時の SNS 活用」で学んだことを踏まえて) では、近くの避難場所を確認したいときはどうすればよいでしょう？ ご自宅にいるときだけでなく、外出時に災害が起きたときなど、いつでもどこでも自分のいる場所から近い避難場所を確認するための方法を見ていきましょう。</p> <p>(自治体の LINE 公式アカウントを開いて) 「防災」をタップしてください。</p>	<p>ポイント 時間があれば、活用編本編の「災害時の SNS 活用」のワーク終了後に行うとよい</p> <p>ポイント 自治体ごとに操作方法が異なる可能性があるため、事前に確認しておく</p>
			<p>「避難所とハザードマップ」をタップし、「オープンマップ」をタップしてください。</p>	
			<p>利用承諾の事項を確認した上で「承諾する」をタップしてください。すると、「現在地」をタップすることによって、今皆さんがいるこの場所から近い避難所を調べることができます。</p>	<p>ポイント スマートフォンから位置情報を取得する旨の表示(ポップアップ)が出ることがあるため、その場合は「許可する」をタップしてもらうと、現在地から避難所を確認できるようになる</p>

LINEオープンチャットの設定方法

活用編の講座を実施する際には、下記の手順にしたがってLINEオープンチャットを作成ください。

なお、LINEオープンチャット内ではニックネームでの表示ができ、講座終了後にルームごと削除できるため、個人アカウントからLINEオープンチャットをおつくりいただいても問題ございません。

1. LINEオープンチャットの新規作成



1-1. LINEアプリ下段の[トーク]アイコンをタップします。

1-2. [トークタブ]内の[+]アイコンをタップします。

※LINEアプリのバージョンによって、[吹き出しマーク]の中に[オープンチャット]のボタンがある場合があります。

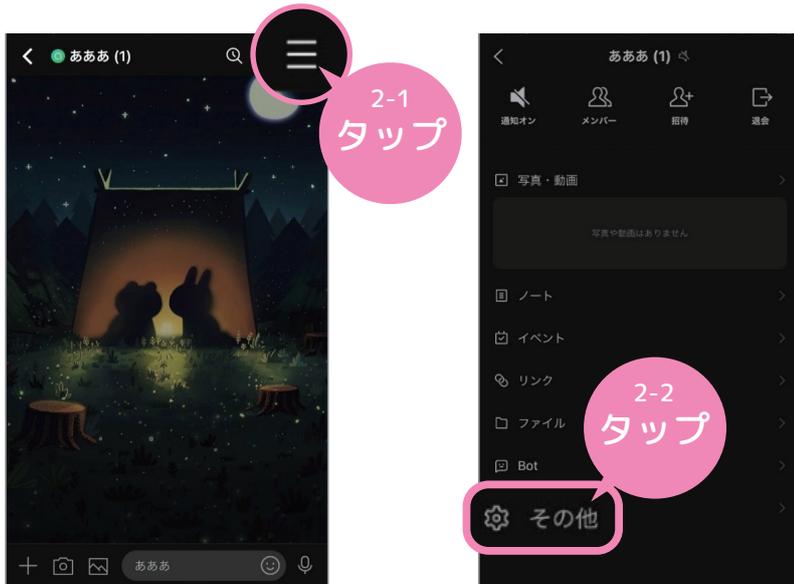
1-3. [+]アイコンをタップします。



1-4. タイトルや説明、カテゴリーを選択し、[プレビュー]をタップする。

1-5. [次へ]をタップし進めていくと、LINEオープンチャットができあがります。

2. LINEオープンチャットの設定



2-1. 次に、講座参加者がこのLINEオープンチャットに入るための設定をします。右上の[≡]をタップしてください。

2-2. [その他]をタップすると、[オープンチャット設定]が表示されます。



2-3. ここで、[オープンチャットの検索を許可]を[オフ]に設定しておきます。

2-4. そのまま下にスクロールし、[公開設定]をタップします。



2-5. 設定した参加コードは、そのまま講座中に参加者が入力するコードです。

2-6. こちらを講座参加者へ活用編講座スライドP8のタイミングで共有してください。



2-6 入力

3. QRコード作成



3-1. 最後に、QRコードを取得します。
[オープンチャット設定]の1つ前の画面まで戻り、[招待]をタップしてください。

3-2. その後表示されるQRコードによって、講座参加者がLINEオープンチャットへアクセスすることができます。
スクリーンショットを撮るか、[QRコードをシェア]によって保存・共有した後で、紙媒体に印刷して配布してください（活用編スライドに埋め込むことも可）。

講座が終わったら…

4. LINEオープンチャットの削除方法



4-1. 前頁「2.オープンチャットの設定」と同様のやり方で[オープンチャット設定]を開きます。

4-2. 一番下までスクロールし、[オープンチャットを削除]をタップして進めると、削除完了です。

誤って[オープンチャットを退会]してしまった場合は？

→参加コードによってもう一度入り直し、削除しなおしてください。

スマートフォン・SNS活用教材

講師用資料

令和4年4月15日 初版発行

制 作 山口市（デジタル推進課）
LINE株式会社
東洋英和女学院大学講師 酒井郷平
アラサキデザインスタジオ
